



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月7日

上場会社名 株式会社ソケット 上場取引所 東
 コード番号 3634 URL <https://www.sockets.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室室長 (氏名) 茂田 輝子 TEL 03-5785-5518
 四半期報告書提出予定日 2023年8月8日 配当支払開始予定日—
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有「2024年3月期第1四半期決算説明資料」を同日付けで公表しております。
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の業績 (2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	243	14.8	△16	—	△16	—	△15	—
2023年3月期第1四半期	212	5.3	△38	—	△38	—	△38	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△6.35	—
2023年3月期第1四半期	△15.85	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	999	789	75.3
2023年3月期	1,037	813	74.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 752百万円 2023年3月期 775百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	10.6	0 ～15	—	0 ～15	—	△2 ～12	—	△0.93 ～5.18

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※当社は年次で業績管理を行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	2,477,400株	2023年3月期	2,477,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	24,683株	2023年3月期	24,583株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	2,452,781株	2023年3月期1Q	2,452,817株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しています。
- ・当社は2023年8月8日（火）に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、軟調な世界経済や国際的な原材料などの値上がりに影響を受ける物価上昇などの中、底堅い設備投資やコロナ環境の反動である、いわゆるリベンジ消費などの背景もありながら緩やかな景気回復とまでは言えない状況にありました。

一方で、インバウンドはじめ国内外の観光を含めた人の交流も復活し、経済活動におきましては、アフターコロナの時代に入る状況にあります。

また、OpenAI社のChatGPTをはじめとした生成AIの進化は著しいものがあり、今後、規制と進化の狭間で、産業革命以来の大きな社会構造の変化に至ることが予測されます。

その中で、世界、そして日本においても、パーパス経営、人的資本経営、SDGs、ウェルビーイングなど社会性、多様性、包摂性などの価値観や精神性の醸成は今後より一層進むことと思われます。

その変化の中では、経済活動においても、企業と生活者、顧客との共感性を伴う繋がりは、従来以上に重要な要素となり、当社独自の企業と顧客の気持ちを繋ぐ感性AI、感性メタデータ活用先、活用方法は広がる社会環境にあります。

当社の既存の主力事業である感性AIを活用したエンターテインメント分野でのデータサービスは、音楽・映像のインターネット配信の需要の広がりを受けて、前年度より着実に伸長しております。また感性AI技術の活用先は、エンターテインメント分野以外の美容、健康、ファッション、食、飲料、旅、住、金融など日々の暮らしに関わる領域に広がっております。具体的には、クッキーを使用しない新しいインターネット広告サービス、またあらゆる企業の自社保有のデータ（ファーストパーティデータ）の充実に向けた感性メタデータ生成サービスの開発と提供が進んでおります。これらの事業機会においては、従来の自然言語処理技術だけでは困難な曖昧な文脈（コンテキスト）を解釈する技術が極めて有効となります。そして、さらに重要なのは、当社技術は曖昧な文脈（コンテキスト）を解釈するだけでなく、さらにその文脈（コンテキスト）の周辺にある人の感性や感情を推測することを可能とする点となります。この分野においては、生成AIとの相互補完も見込まれ、ますますの技術革新が当社においても進んでまいります。

当社の独自感性データ技術は、ひとりひとりが、自分らしく生きる、社会と共に生きる、自らのライフスタイルを見つけてより良く暮らす、ウェルビーイングともいわれる、そうしたニーズに応えることが可能です。あわせて企業から見ても、今後より自社のフィロソフィー、カルチャー、こだわり、期待価値などを丁寧に細かく発信することで、自社の感性価値、情緒的価値に基づいた生活者との長期的な視点に立ったコミュニケーションが重要であり、それらの生活者と企業とのエモーショナルな繋がりを創ることに於いて、当社独自の感性AIの有用性があります。

その上で、中期的には、当社の既存主力事業であるエンターテインメント分野と新規事業である感性マーケティング分野を繋ぎ、日本全国の大企業から個人事業者や生産者と生活者とのコミュニケーション活動とエンターテインメントが持つ共感を増幅する力を掛け合わせ、気づきと共感を繋げる社会の実現に貢献してまいります。

当社の強みは、感性メタデータを活用した独自の感性AIの開発と音楽、映像を中心としたエンターテインメント分野を通じて人間が持つ感性や感情を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行い、国内最大級の感性データベースであるメディアサービスデータベース（以下「MSDB」といいます）として開発、運用しているところにあります。それらのデータ・技術開発を通じて、人間の感性と感情に寄り添う「セレンディピティ＝偶然の幸せな出会い」を生む独自のサービスを創ります。

当社は、「データベース・サービスカンパニー」として、創業以来『人の気持ちをつなぐ』ことをミッションに、コンテンツに紐づく情報をデータベース化したオリジナルのMSDBを開発し、主にインターネットサービス会社を対象に、データ提供、検索機能提供、レコメンド・パーソナライズ機能提供、データ分析などの多様なデータベース関連サービスの開発および提供を行っております。具体的には現在、「音楽データサービス」「映像データサービス」「感性ターゲティング広告サービス」の3事業を展開しております。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、ヤフー株式会社、楽天グループ株式会社、LINE MUSIC株式会社、HJホールディングス株式会社（サービス名Hulu）、株式会社サイバーエージェント（サービス名「ABEMA」）、株式会社フジテレビジョン（サービス名「FOD」）、株式会社集英社、株式会社世界文化ホールディングス、株式会社CCCメディアハウスなどのサービスにて利用されております。

開発・運用型売上ではなく、技術ライセンス収入主体への事業モデルの転換に向けたデータ・テクノロジーライセンス事業に一段と主力事業がシフトする一方で、研究開発やデータ開発を引き続き、売上の25%を目処に積極的な投資を実行しております。それら事業活動の結果として、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高243,913千円（前年同期比114.8%）、営業損失16,871千円（前年同期は38,499千円の営業損失）、経常損失16,798千円（前年同期は38,396千円の経常損失）、四半期純損失15,577千円（前年同期は38,881千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は、999,319千円（前事業年度末比38,062千円減）となりました。流動資産につきましては911,532千円（同37,836千円減）となり、増減の主な要因としましては、現金及び預金の増加（同24,181千円増）並びに売掛金の減少（同67,937千円減）などがあったことによります。

負債は、209,713千円（同14,620千円減）となりました。増減の主な要因としましては、賞与支給による賞与引当金の減少（同22,281千円減）などがあったことによります。

以上の結果、純資産は、789,605千円（同23,441千円減）となり、自己資本比率は、前事業年度末の74.7%から75.3%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の個別業績見通しは、以下のとおりであります。直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	10.6	0 ～15	—	0 ～15	—	△2 ～12	—	△0.93 ～5.18

(注) %表示は対前年増減比になります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	722,561	746,743
売掛金	199,217	131,279
仕掛品	305	—
その他	27,284	33,509
流動資産合計	949,369	911,532
固定資産		
有形固定資産	0	273
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
その他	88,012	87,512
投資その他の資産合計	88,012	87,512
固定資産合計	88,012	87,786
資産合計	1,037,381	999,319
負債の部		
流動負債		
買掛金	27,095	29,951
未払金	8,541	9,961
未払法人税等	8,301	2,971
賞与引当金	43,202	20,920
その他	40,273	47,114
流動負債合計	127,413	110,919
固定負債		
退職給付引当金	96,921	98,794
固定負債合計	96,921	98,794
負債合計	224,334	209,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	204,137	204,137
その他資本剰余金	124,175	89,928
資本剰余金合計	328,312	294,066
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△26,888	△15,577
利益剰余金合計	△26,888	△15,577
自己株式	△32,009	△32,097
株主資本合計	775,151	752,127
新株予約権	37,895	37,478
純資産合計	813,047	789,605
負債純資産合計	1,037,381	999,319

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	212,552	243,913
売上原価	106,676	128,084
売上総利益	105,875	115,829
販売費及び一般管理費	144,375	132,700
営業損失(△)	△38,499	△16,871
営業外収益		
受取利息	—	9
受取配当金	20	—
受取手数料	14	14
商標権使用料	30	30
未払配当金除斥益	38	18
その他	0	0
営業外収益合計	102	72
経常損失(△)	△38,396	△16,798
特別利益		
新株予約権戻入益	87	1,793
特別利益合計	87	1,793
税引前四半期純損失(△)	△38,308	△15,005
法人税、住民税及び事業税	572	572
法人税等合計	572	572
四半期純損失(△)	△38,881	△15,577

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。